

娘が 重病で入院した時は 麻酔ミスにより 低髄圧症候群になり
手術は 成功しましたが 術後 まったく 歩けないようになり
当時は これから どうしようかと 思っていました。

激痛は 日々 増すばかりで 絶望の日々でした。

毎朝 看護師さんが病室へ 来られ 術後はすぐに 歩く練習をする
ようにと言い 激痛で泣いている娘を ベットから 無理やり
引きずりおろして 歩かせていました。娘は 泣いていました。

後で 他の看護師さんから きいたことですが 低髄圧症候群という
病名を知らず まただれからもきいていないので 対処方法を
まったく 教えられていないと いうことでした。

ものすごい激痛なので ベットで寝ていた方がよいのですが
そのことを 病室の担当医に 訴えと 毎朝 来られていた
その看護師さんは 翌日から 現れませんでした。

低髄圧症候群になり ものすごい激痛のため 娘は 泣いているのに
さらに 看護師さんたちからは 早く退院していただくためにも
歩く練習をしなさいと 厳しく言われ 困り果てていました。

血液パッチの治療方法は 受けた患者のほとんどは すべて成功して
いるので 安全であり また魔法のような 即効作用があり
これに勝る治療方法は 現在では まだないと 部長先生が
おっしゃいました。血液パッチを受けて 回復しない場合も わずかに
ありますが その場合は なにか他の病気がある場合だと いうこと
です。血液パッチの治療方法は その技術を なん回も 重ねて習得する
ことが重要だと いうことです。 IT 時代に 突入していますから 現在
は 医師がしておられますが ひょっとすると 髄液のある場所を
IT ロボットが 見つけて治療する日々も 来るかもしれません。

が 血液パッチは 自己血液を 少量 採取して 保存せずに すぐに
髄液の場所へ 入れますから 副作用はまったくありません。が その
技術が 重要だと 思います。低髄圧症候群は ものすごい激痛なので
無理やり歩かせたりしないように 看護師さんたちにも 伝えて
ほしかったと 思います。血液パッチはまだ 知られていない治療方法
であり しかしすぐれた治療方法であり 成功率 100%だと 言っても
過言ではなくそういう 治療方法があるということを 知ってほしいと
当時 部長先生は 語っておられました。

低髄圧症候群は 髄液が漏れて 激痛が発症します。



血液パッチの治療を受け 娘は
病室を 歩けるようになりました。
治療後 数時間後に
歩けるようになりました。
魔法の治療だと 思うほどだと
部長先生から きいていました。

まだ 娘も これから病院へ行くこともあり 恨まれると恐ろしいので
血液パッチの治療方法は 言わない方がよいとも 思いました。

しかし 当時の部長先生は とにかくすばらしい治療方法なので ぜひ
知ってほしい 副作用がまったくないと ご発言しておられました。

数週前 娘は 手術を受けた病院へ 検査のために 行きました。

結果は よいということでした。

血液パッチを受けて 回復しない場合もあるかとも 思い 恨まれると
恐ろしい結果になると思いましたが 娘の場合は 治療が成功しました。

ひとりでも 多くの方に なんとか 元気になっていただきたいという
純粋な思いで お伝えしています。娘が 泣いている姿を見て

私たち家族も 絶望して 地獄の日々でした。

放置していても 回復する場合もあるとのことですが 娘の場合は
激痛が 激しくなり歩けない状況になったのです。

放置しても 回復する場合は 髄液の漏れが かなり少ない場合だと
いうことです。

髄液が漏れるというのは ものすごい激痛を からだに感じて 歩く時は
平衡感覚も 失われ 歩けない状況になります。

座ることさえもできず 寝たままで食事をしなければなりません。

低髄圧症候群になった場合 血液パッチの治療の 経験を重ねられた

医師が おられたら すぐに相談するようにと 当時の部長先生は

そのようにおしゃっておられました。麻酔ミスだと はっきり言うと

病院の恥をさらしたと 恨まれ恐ろしいのですが 当時の 部長先生は

麻酔ミスによる 髄液漏れの 激痛だと はっきりと 認めてください

ました。その潔さに 驚きましたが 血液パッチの治療方法に

ものすごい自信と信頼を 経験により 得ておられたからだと 思います。

娘と いっしょに 観光へ行く
ことは できないだろうと 絶望
の日々でした。退院する時 娘は
ひとりで 周りのものをかたずけ
て待っていました。部長先生も
喜んでおられました。



そういうことを 経験していますので お知らせして まだ 知って
おられない方々が そういう状況になった場合に そういう
治療方法があると いうことを知り 希望を 失わないでほしいのです。
血液パッチの治療をしてくださった 部長先生も 若い頃は
治療に悩まれたことも あるだろうと と思いますが 日々の経験を
重ねられ 多くの患者を治療して 救う名医に なられたと 思います。
経験の少ない 若い医師に 娘の手術の担当をさせた その病院に
私は 当時は 激怒していました。まして 低髄圧症候群という病名
さえも まったく知らないと 当時は 多くの看護師さんたちが
言っておられました。激怒と悲しみの日々でしたが 結局 娘の
髄液漏れは 止まり 激痛が なくなり 歩けるようになりました。
病名と 患者への対処とかは はっきりと 看護師さんたちへ 伝えて
いてほしかったと 思います。が 病院としても 麻酔ミスという
悪い評判が 広がるとまずいという 恐れがあったものと推察されます。
しかし 当時の 部長先生は 私の訴えを 真摯に きいてくださり
激怒も 少しは やわらぎました。麻酔ミスをした あの若い医師からの
血液パッチは受けたくない と 娘は 泣きながら言います。
そのことを 部長先生へ 言うと 経験が長いので 患者の気持ち
患者の家族の気持ちは すべてわかっていますからと いうことでした。
彼には 血液パッチの治療は させません。私が 直接しますとの
ことでした。ここまで書くと 私も恨まれるのではと 恐ろしいのですが
そういう治療方法があると いうことを 知ってほしいのです。
なお MS 明朝で書くと 文字間隔も きれいなのですが 他のフォントで
書くと なぜかわかりませんが 文字間隔が 乱れますので
MS 明朝で 書いています。